縦

石川県議会議員 横山隆也 活動報告 vol.5

横山隆也通信

よこやま たかや

無尽

県政の進展に力戦奮闘。

令和元年9月 一般質問

小さなことから
大きなものまで
全力で取り組みます。

ごあいさつ

謹啓

春分の候、皆様におかれましては益々ご清栄のこととお喜び申し上げます。

日頃から私の政治活動に対し、深いご理解とご支援を賜り、心より御礼申し上げます。

本年も初心を忘れず、誠心誠意、県政発展のために尽くすことをお約束いたします。

さて、昨年5月に平成から「令和」に元号が改められました。新しい時代の幕開けに期待するところは大きいと言えます。今年に入り、新型コロナウイルスが猛威を振るっていますが、石川県の経済成長を下支えし、地域の活性化を図っていきます。

五輪イヤーの今年、石川県が進めてきたビックプロジェクトが相次いで完成を見ます。金沢港クルーズターミナルの新設、東京国立近代美術館工芸館の移転、金沢城公園鼠多門・鼠多門橋の復元の3つです。これらの新たなステージの上で、どのような物語を紡ぎ出すことができるのかがカギです。文化立県石川の魅力に磨きをかけ、郷土の文化に息づく財産となることを願います。

3年後には北陸新幹線敦賀延伸が実現し、石川県にとっては念願の全県開業を迎えます。その時に大きく飛躍するため、今年はしっかりと腰を据えて基礎体力をつけ、地域の発展に力を注ぐ必要があります。

また、北陸新幹線開業以降、その波及効果が加賀と能登に広く行き渡っているとは言いがたく、人口減少対策とともに交流人口を増やしていく力強い施策も求められています。

最後になりますが、皆様方のご健勝とご多幸を衷心よりお祈り申し上げます。

謹白

令和2年3月吉日

石川県議会議員 横山隆也

地域に尽くす政治

7つの重点施策

わたしのミッションは、皆さんに幸せを運び、生活を豊かにすることです。地域の枠、産業の枠を超えて、地域経済という大局的なフィールドで課題を捉え、活力の向上を図ります。そのために、地域から幅広く情報を収集し、それらを冷静に分析し、前例や慣習にとらわれない、時代に先駆ける政策の立案、実現に向け、官民の各領域を超えて縦横無尽に活動していきます。

MISSION 1 魅力が輝き交流が盛んな地域づくり

北陸新幹線金沢開業をはじめとした陸・海・空の交通網の整備により、観光客はもとより、金沢港のコンテナ取扱量が年々増加するなど、人やものの交流は大きく拡大しました。本県の魅力を一層磨き、その輝く魅力を発信し、これまで以上に交流が盛んな地域を目指します。

◎北陸新幹線の早期全線整備と開業効果の持続・発展
◎さらなる誘客促進と石川ファンの拡大
◎人・ものの広域な交流のための基盤整備と活用

MISSION 2 成長する農林水産業と農山漁村づくり

今後、一次産業の担い手不足や高齢化に加え、人口減少に伴う国内市場の縮小が見込まれることなどから、農林水産業への影響が懸念されます。このため、担い手の確保や経営基盤の強化に向けた施策を推進し、里山里海での生業づくりを進め、活性化を図っていきます。

◎農林水産業の収益性の向上と生産・販路の拡大
◎地域の強みを活かした里山里海の振興
◎森林資源の利活用と林業の活性化　◎鳥獣被害対策の強化

MISSION 3 安全・安心と豊かな里山里海に包まれる環境づくり

近年、地球温暖化の進行による異常気象や、東日本大震災など大規模な自然災害が日本各地で多発しているほか、高度経済成長期に整備されたインフラの老朽化が進行しており、安全・安心の確保に取り組みます。

◎官民一体となった災害に強い県土づくり
◎必要な医療がしっかりと提供される地域社会づくり

MISSION 4 少子高齢化を見据えた希望と安心の社会づくり

人口減少、特に少子化に歯止めをかけるには、合計特殊出生率の向上が不可欠です。これまで子育て支援先進県として取り組んできた様々な施策をさらに拡充・深化させることが必要あり、安心して子どもを生み育てていくことができるよう、ライフステージに応じた切れ目のない支援を行います。

◎ライフステージに応じたきめ細かな少子化対策の充実
◎団塊の世代が後期高齢者となる2025年に向けた高齢者対策の強化

MISSION 5 未来を拓く心豊かな人づくり

社会全体が急速に変化している中にあって、本県の将来を支える子どもたち一人ひとりの、確かな学力はもとより、社会の変化に対応できる資質・能力を育成します。また、ふるさとに対する誇りと愛着を礎に、地域の活性化に貢献できる人材を育成します。

MISSION 6 みんなで支えるやすらぎと絆の社会づくり

東日本大震災を契機に、地域での付き合いや人と人との絆が地域社会の安全・安心の実現に果たす役割として再認識されるようになりました。地域の暮らしを支える相互理解や助け合いを充実する取り組みを推進します。

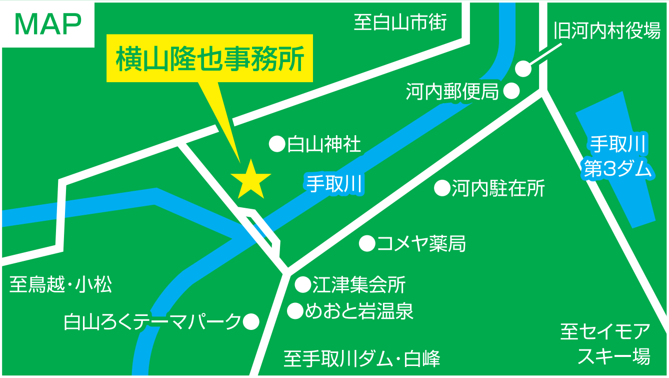
MISSION 7 人を惹きつける生涯居住の地域づくり

人口減少対策として、石川に人を呼び込む必要があります。このため、魅力ある雇用の場を生み出すとともに、学生のUターン・県内就職を促進します。また、充実した交流・生活基盤にさらに磨きをかけ、一生暮らす移住・定住先として選ばれる地域づくりを推進します。

発行所 横山隆也事務所
〒920-2373 石川県白山市河合町甲21番地
TEL.076-254-2820 FAX.076-254-2821
AM10:00～PM4:00（土日祝はお休みです）
公式ホームページ http://www.yokoyamatakaya.com/
Facebook やってます!

【縦横無尽】じゅうおう・むじん | 何事にもとらわれず、あらゆる方面で物事を思う存分にすること。また、そのさま。

お近くにお越しの際はお気軽にお立ち寄りください



ふるさと石川の伸びゆく未来に尽力

さまざまな視点から一般質問しました！

白山登山者受入体制・避難所の環境改善について

質問

白山登山者の安全を確保 利便性の向上を目指す

白山国立公園の自然環境の保全と登山者の安全確保、交通混雑の緩和は欠かせない。マイカー規制とシャトルバスの運行状況、県道白山公園線の整備、別当出合駐車場の現状をうかがいたい。

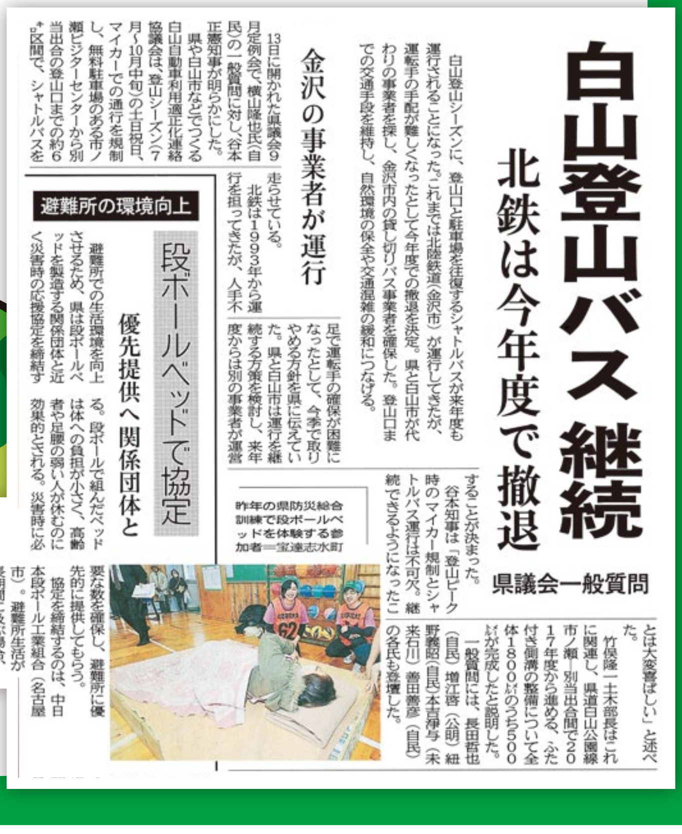
答弁

令和2年度以降もマイカー規制は実施し、シャトルバス運行の継続も目途が立った。県道白山公園線の二車線化は困難だが、避難所と蓋付き側溝の整備を進めている。また、別当出合駐車場の利用は平日のみであり、収容台数200台でほとんどまかなえており、満車となるのは数日だ。

11 横山隆也

私の意見

石川県が誇る白山は、古くから庶民に親しまれてきた山であり、登山者が絶えることがありません。観光の面から言っても、貴重な資源であることは間違いなく、今後も交通アクセスの利便性を高め、安全安心な登山環境を整えていく必要があります。



白山登山バス継続

北鉄は今年度で撤退

県議会一般質問

白山登山シーズンに、登山口と駐車場を往復するシャトルバスが来年度も運行されることになった。これまでは北陸鉄道（金沢市）が運行してきたが、運転手の手配が難しくなったとして今年度での撤退を決定。県と白山市が代わりの事業者を探し、金沢市内の貸し切りバス事業者を確保した。登山口までの交通手段を維持し、自然環境の保全や交通混雑の緩和につなげる。

金沢の事業者が運行

13日に開かれた県議会9月定例会で、横山隆也氏（自民）の一般質問に対し、谷本正憲知事が明らかにした。

県や白山市などでつくる白山自動車利用適正化連絡協議会は、登山シーズン（7月～10月中旬）の土日祝日、マイカーでの通行を規制し、無料駐車場のある市ノ瀬ビジターセンターから別当出合の登山口までの約6キロ区間で、シャトルバスを走らせている。

北鉄は1993年から運行を担ってきたが、人手不足で運転手の確保が困難になったとして、今季で取りやめる方針を県に伝えていた。県と白山市は運行を継続する方策を検討し、来年度からは別の事業者が運営することが決まった。

谷本知事は「登山ピーク時のマイカー規制とシャトルバス運行は不可欠。継続できるようになったことは大変喜ばしい」と述べた。

竹俣隆一土木部長はこれに関連し、県道白山公園線市ノ瀬―別当出合間で2017年度から進める、ふた付き側溝の整備について全体1800メートルのうち500メートルが完成したと説明した。

一般質問には、長田哲也（自民）、増江啓（公明）、紐野義昭（自民）、本吉淨与（未来石川）、善田善彦（自民）の各氏も登壇した。

避難所の環境向上

段ボールベッドで協定

優先提供へ関係団体と

避難所での生活環境を向上させるため、県は段ボールベッドを製造する関係団体と近く災害時の応援協定を締結する。段ボールで組んだベッドは体への負担が小さく、高齢者や足腰の弱い人が休むのに効果的とされる。災害時に必要な数を確保し、避難所に優先的に提供してもらう。

協定を締結するのは、中日本段ボール工業組合（名古屋市）。避難所生活が長期間に及ぶ場合、県の要請に応じ、同組合加盟の県内の製

昨年の県防災総合訓練で段ボールベッドを体験する参加者＝宝達志水町

質問

災害時に不可欠な避難所の環境整備を

近年、全国各地で災害が相次ぎ、緊急時における避難所の役割は大きくなっている。健康に影響しかねない過酷な避難所の生活環境の改善に向けて段ボールベッドが注目を集めており、段ボール業界等と供給協定を結ぶ自治体が増えている。本県も検討してはどうか。

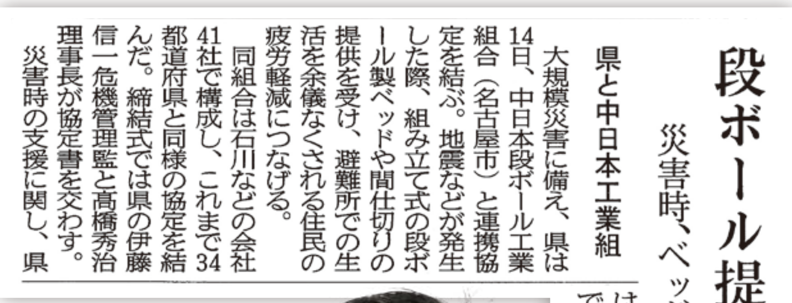
答弁

これまでも避難所の良好な生活環境の確保に努めてきた。段ボールベッドの活用については、9月に実施した県防災総合訓練で実用性の高さを実感し、参加者からも好評だった。現在、段ボールの関係団体との連携協定の締結に向けて協議を進めている。

11 横山隆也

私の意見

質問時には協議中でしたが、県と中日本段ボール工業組合が令和2年2月に連携協定を結びました。東日本大震災では、震災関連死の3割が「避難所などにおける生活の肉体的・精神的疲労」だったそうです。心身共に負担の大きい生活環境の改善は行政の責務だと思います。



段ボール提供で協定

災害時、ベッドや間仕切りに

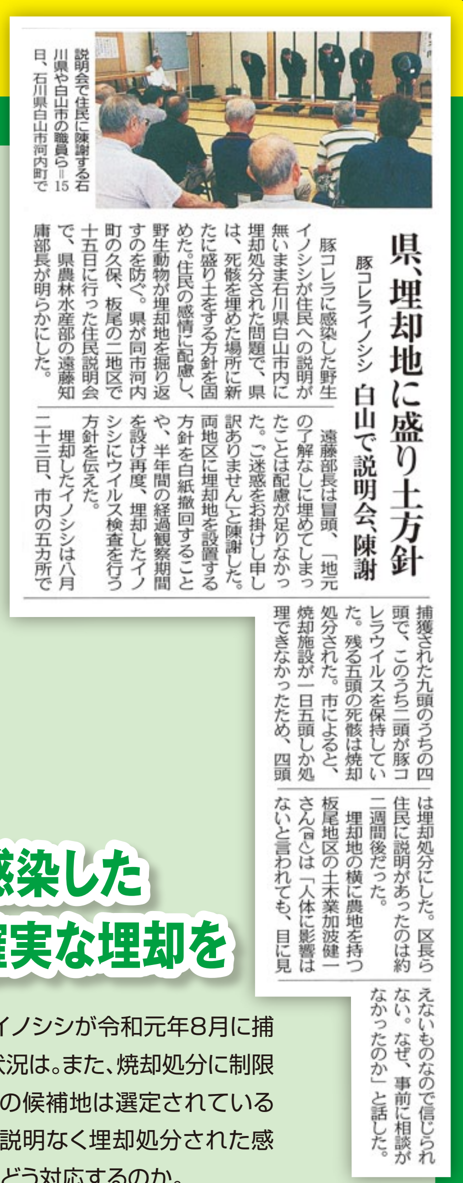
県と中日本工業組

大規模災害に備え、県は14日、中日本段ボール工業組合（名古屋市）と連携協定を結ぶ。地震などが発生した際、組み立て式の段ボール製ベッドや間仕切りの提供を受け、避難所での生活を余儀なくされる住民の疲労軽減につなげる。

同組合は石川などの会社41社で構成し、これまで34都道府県と同様の協定を結んだ。締結式では県の伊藤信一危機管理監と高橋秀治理事長が協定書を交わす。

災害時の支援に関し、県は149団体と協定を結んでいる。

豚コレラ対策について



県、埋却地に盛り土方針

豚コレライノシシ 白山で説明会、陳謝

説明会で住民に陳謝する石川県や白山市の職員ら＝15日、石川県白山市河内町で

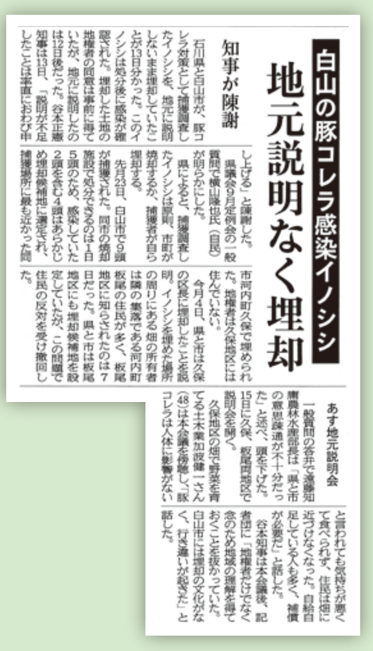
豚コレラに感染した野生イノシシが住民への説明が無いまま石川県白山市内に埋却処分された問題で、県は、死骸を埋めた場所に新たに盛り土をする方針を固めた。住民の感情に配慮し、野生動物が埋却地を掘り返すのを防ぐ。県が同市河内町の久保、板尾の二地区で十五日に行った住民説明会で、県農林水産部の遠藤知庸部長が明らかにした。

遠藤部長は冒頭、「地元の了解なしに埋めてしまったことは配慮が足りなかった。ご迷惑をお掛けし申し訳ありません」と陳謝した。

両地区に埋却地を設置する方針を白紙撤回することや、半年間の経過観察期間を設け再度、埋却したイノシシにウイルス検査を行う方針を伝えた。

埋却したイノシシは八月二十三日、市内の五カ所で捕獲された九頭のうちの四頭で、このうち二頭が豚コレラウイルスを保持していた。残る五頭の死骸は焼却処分された。市によると、焼却施設が一日五頭しか処理できなかったため、四頭は埋却処分にした。区長ら住民に説明があったのは約二週間後だった。

埋却地の横に農地を持つ板尾地区の土木業加波健一さん（48）は「人体に影響はないと言われても、目に見えないものなので信じられない。なぜ、事前に相談がなかったのか」と話した。



白山の豚コレラ感染イノシシ

地元説明なく埋却

知事が陳謝

あす地元説明会

質問

豚コレラに感染したイノシシの確実な埋却を

豚コレラに感染した野生イノシシが令和元年8月に捕獲されたが、捕獲調査の状況は。また、焼却処分に制限があった場合の埋却処分の候補地は選定されているのか。さらに、地元住民に説明なく埋却処分された感染イノシシの掘り起こしはどう対応するのか。

答弁

令和元年7月16日から野生イノシシの捕獲調査を開始し、県内全域で134頭を検査し、5頭の感染を確認した。焼却施設の処理能力を超える場合は、市町が埋却候補地を選定しており、白山市では4カ所を確保している。また、地元住民に事前説明がないまま、埋却処分した点については多大なご迷惑とご心配をかけた。地域住民の皆さまには、心からお詫びを申し上げ、改めてご説明させていただく。

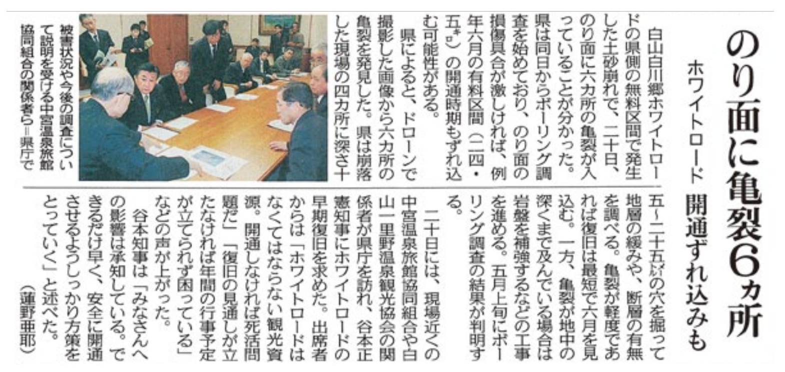
11 横山隆也

私の意見

県と白山市から久保地区、板尾地区に対して、令和元年9月15日に地元住民に説明がありました。豚コレラのまん延は、畜産農家にとって死活問題であり、地元住民への丁寧な対応は欠かせません。適切な処分を実施して、不安を払しょくしてほしいと思います。

皆さまの幸せを実現するために、地域の活性化に全力で取り組んできました！

白山白川郷ホワイトロード本格復旧について



のり面に亀裂6カ所

ホワイトロード 開通ずれ込みも

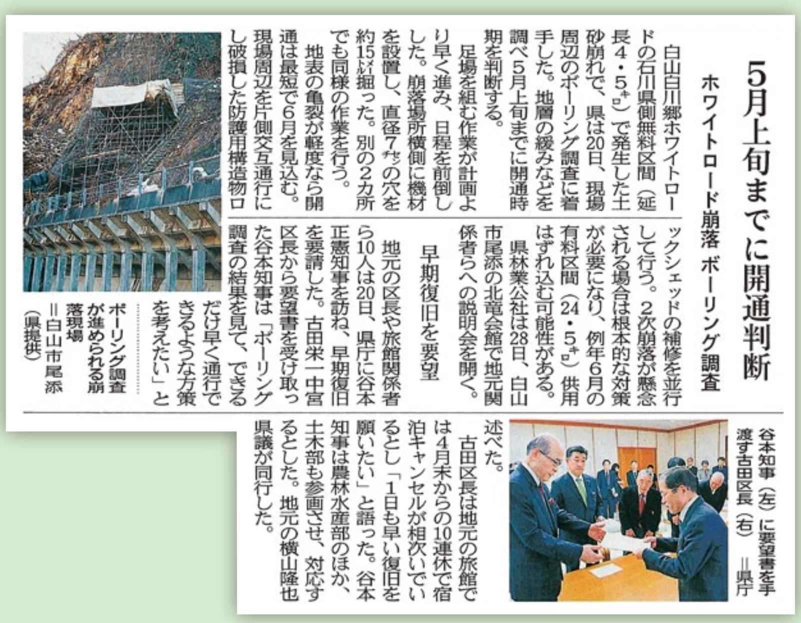
白山白川郷ホワイトロードの県側の無料区間で発生した土砂崩れで、二十日、のり面に六カ所の亀裂が入っていることが分かった。県は同日からボーリング調査を始めており、のり面の損傷具合が激しければ、例年六月の有料区間（二四・五キロ）の開通時期もずれ込む可能性がある。

県によると、ドローンで撮影した画像から六カ所の亀裂を発見した。県は崩落した現場の四カ所に深さ十五～二十五メートルの穴を掘って地層の緩みや、断層の有無を調べる。亀裂が軽度であれば復旧は最短で六月を見込む。一方、亀裂が地中の深くまで及んでいる場合は岩盤を補強するなどの工事を進める。五月上旬にボーリング調査の結果が判明する。

二十日には、現場近くの中宮温泉旅館協同組合や白山一里野温泉観光協会の関係者が県庁を訪れ、谷本正憲知事にホワイトロードの早期復旧を求めた。出席者からは「ホワイトロードはなくてはならない観光資源。開通しなければ死活問題だ」「復旧の見通しが立たなければ年間の行事予定が立てられず困っている」などの声が上がった。

谷本知事は「みなさんへの影響は承知している。できるだけ早く、安全に開通させるようしっかり方策をとっていく」と述べた。（蓮野亜耶）

被害状況や今後の調査について説明を受ける中宮温泉旅館協同組合の関係者ら＝県庁で



5月上旬までに開通判断

ホワイトロード崩落 ボーリング調査

白山白川郷ホワイトロードの石川県側無料区間（延長4・5キロ）で発生した土砂崩れで、県は20日、現場周辺のボーリング調査に着手した。地層の緩みなどを調べ5月上旬までに開通時期を判断する。

足場を組む作業が計画より早く進み、日程を前倒しした。崩落場所横側に機材を設置し、直径7センチの穴を約15メートル掘った。別の2カ所でも同様の作業を行う。

地表の亀裂が軽度なら開通は最短で6月を見込む。現場周辺を片側交互通行にし破損した防護用構造物ロックシェッドの補修を並行して行う。2次崩落が懸念される場合は根本的な対策が必要になり、例年6月の有料区間（24・5キロ）供用はずれ込む可能性がある。

県林業公社は28日、白山市尾添の北竜会館で地元関係者らへの説明会を開く。

早期復旧を要望

地元の区長や旅館関係者ら10人は20日、県庁に谷本正憲知事を訪ね、早期復旧を要請した。古田栄一中宮区長から要望書を受け取った谷本知事は「ボーリング調査の結果を見て、できるだけ早く通行できるような方策を考えたい」と述べた。

古田区長は地元の旅館では4月末からの10連休で宿泊キャンセルが相次いでいるとし「1日も早い復旧を願いたい」と語った。谷本知事は農林水産部のほか、土木部も参画させ、対応するとした。地元の横山隆也県議が同行した。

ボーリング調査が進められる崩落現場＝白山市尾添（県提供）

谷本知事（左）に要望書を手渡す古田区長（右）＝県庁

質問

広域観光道路として重要 安全性の十分な確保を

平成30年12月に石川県側の無料区間で大規模な土砂崩れが起こり、防護用構造物「ロックシェッド」が損傷した。一日も早い復旧を求めた結果、令和元年7月には全線開通の運びとなり、迅速な応急対策工事に感謝したい。今後の全面開通の見通しについてはどうか。また、危険箇所の点検整備を実施すべきではないか。

答弁

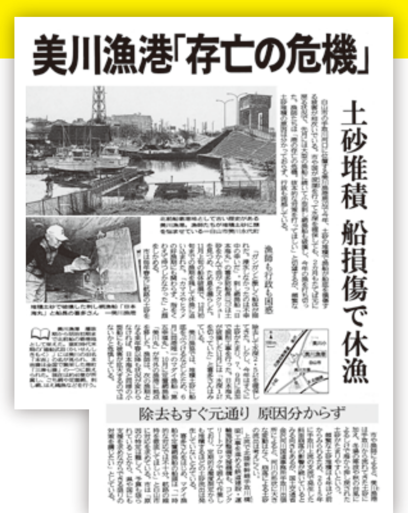
応急対策工事が完了し、本格的な復旧に向けた工事を進めている。令和元年度は崩落した斜面を安定させ、その後にロックシェッドの復旧を予定している。令和3年度の有料区間開通時（6月頃）には完了したい。今回の崩落を受け、緊急総点検を行い、対策工事が必要な箇所が12カ所あった。順次整備を進めたい。今後、岐阜県と協力して安全確保を図りたい。

11 横山隆也

私の意見

白山白川郷ホワイトロードは、重要な広域観光道路であることから、全線開通の目途が立っていたことに安心していました。ところが、令和2年2月に再び崩落事故が発生したことから、一刻も早い全線開通に向けて、今後もこの問題に取り組んでいきます。

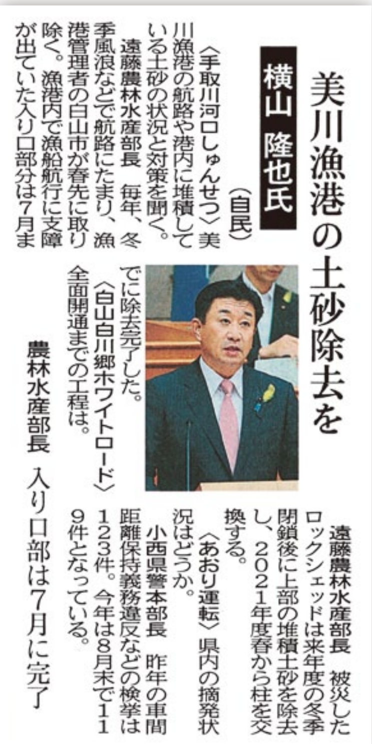
手取川河口の浚渫（しゅんせつ）について



美川漁港「存亡の危機」

土砂堆積 船損傷で休漁

除去もすぐ元通り 原因分からず



美川漁港の土砂除去を

横山 隆也氏（自民）

〈手取川河口しゅんせつ〉美川漁港の航路や港内に堆積している土砂の状況と対策を聞く。

遠藤農林水産部長 毎年、冬季風浪などで航路にたまり、漁港管理者の白山市が春先に取り除く。漁港内で漁船航行に支障が出ていた入り口部分は7月までに除去完了した。

〈白山白川郷ホワイトロード〉全面開通までの工程は。

農林水産部長 入り口部は7月に完了

遠藤農林水産部長 被災したロックシェッドは来年度の冬季閉鎖後に上部の堆積土砂を除去し、2021年度春から柱を交換する。

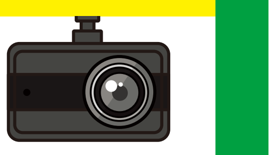
〈あおり運転〉県内の摘発状況はどうか。

小西県警本部長 昨年の車間距離保持義務違反などの検挙は123件。今年は8月末で119件となっている。

港内と航路の土砂の除去を 漁船の安全な操業を確保

美川漁港に所属する漁船にとって、港内と航路に土砂が堆積し、水深が浅くなると航行に支障が出ます。問題が起こる前に土砂を除去してほしいと考えます。

あおり運転根絶・ドライブレコーダー設置について



危険なあおり運転の抑止へ ドライブレコーダーの設置拡大を

近年、重大な事故につながりかねない「あおり運転」が問題となっています。そのような運転の抑止につながるドライブレコーダーは有効であり、公用車への設置を拡大していく方針が示されました。また、副次的な効果として、運転者の交通安全意識の向上も期待できるため、素早い対応を期待しています。

ジビエについて

感染イノシシの利用自粛で 収入減少に対する支援策を

石川県内には5つのジビエ加工施設があり、ジビエの加工品や料理を提供する店舗も増えるなど、新たな観光資源として期待しているところです。ただ、感染イノシシによって、利用の自粛が進むなど、影響は少なくありません。ジビエを資源として定着させるためにも、店舗などの経営基盤を安定させるサポートが必要だと考えています。

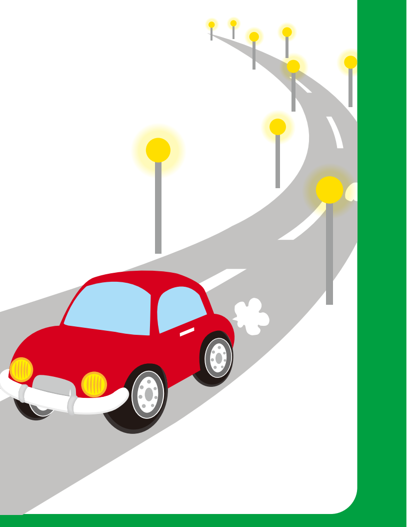
全国住みよさランキング2019の評価について

生活環境の良さを積極的にアピール 移住者の増加に向けた 体験ツアーやイベントの企画を

石川県では、白山市が1位、3位に野々市市、8位に能美市がランクインしています。生活環境がいかに充実しているかを証明したと言えるでしょう。人口減少時代において、この結果は絶好のアピールチャンスとなります。ILAC（いしかわ就職・定住総合サポートセンター）を中心に移住体験ツアーやイベントを企画し、移住者の増加につなげていってほしいです。

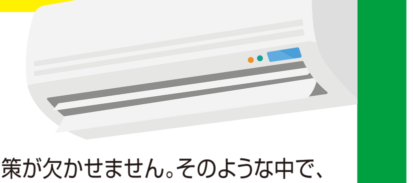
小松白川連絡道路について

県民悲願の道路の開通へ向け 一致団結して国に働き掛け



新たに能美市、川北町、高山市、下呂市の4市町を加え、8市町村の商工団体も加入し、令和元年8月に「国道360号（飛騨地域～小松空港間）整備促進期成同盟会」に名称を変更しました。建設を目指す動きが加速しており、石川県としても道路開通に向けて、事業化への調査を国に要望しています。石川・岐阜両県の発展に欠かせないこの道路の着工実現に全力を傾けます。

学校施設のエアコン設置状況について



学ぶ意欲を保てる 万全な猛暑対策を

最近の夏は、命が危ぶまれるほどの猛暑日が続き、熱中症対策が欠かせません。そのような中で、学習環境の整備は喫緊の課題です。県立高校へのエアコン整備は令和2年夏までに終える予定となっています。また、県内の公立小中学校では、18市町は完了し、金沢市は令和3年度末までに終えます。夏場、子供たちが学ぶ意欲を保てるよう、尽力していきます。

さまざまなところに出向いていろんな方と出会いました！

石川県議会議員小松基地研修記念　令和元年１１月２８日（木）

交流

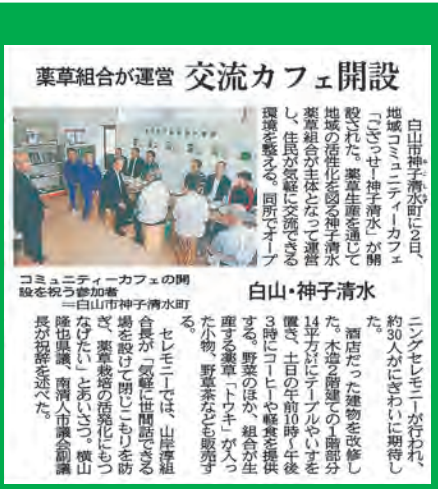
国内外のネットワークを広げる。

生活の基盤を整える。

防災

災害から人命と財産を守る。

いつでも、どこでも。足を運んで確かめ、交流します。



薬草組合が運営 交流カフェ開設

白山・神子清水

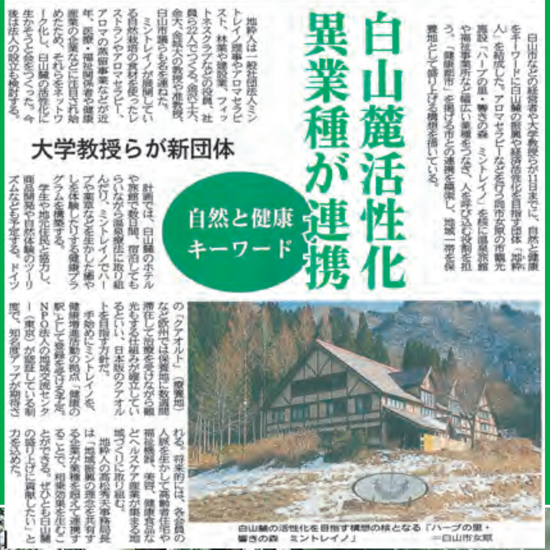
白山市神子清水町に2日、地域コミュニティーカフェ「ござっせ！神子清水」が開設された。薬草生産を通じて地域の活性化を図る神子清水薬草組合が主体となって運営し、住民が気軽に交流できる環境を整える。同所でオープニングセレモニーが行われ、約30人がにぎわいに期待した。

酒店だった建物を改修した。木造2階建ての1階部分14平方㍍にテーブルやいすを置き、土日の午前10時～午後3時にコーヒーや軽食を提供する。野菜のほか、組合が生産する薬草「トウキ」が入った小物、野草茶なども販売する。

セレモニーでは、山岸淳組合長が「気軽に世間話できる場を設けて閉じこもりを防ぎ、薬草栽培の活発化にもつなげたい」とあいさつ。横山隆也県議、南清人市議会副議長が祝辞を述べた。

コミュニティーカフェの開設を祝う参加者＝白山市神子清水町

人と人の交流は社会を活性化させます。それは国内に限ったコトではなく外国とも同様です。交流によって新たなまちの賑わいの創出につなげます。



白山麓活性化 異業種が連携

大学教授らが新団体

自然と健康 キーワード

白山市などの経営者や大学教授らが11日までに、自然と健康をキーワードに白山麓の振興や経済活性化を目指す団体「地粋人」を結成した。アロマセラピーなどを行う同市女原の市観光施設「ハーブの里・響きの森 ミントレイノ」を核に温泉旅館や福祉事業所など幅広い業種をつなぎ、人を呼び込む役割を担う。「健康都市」を掲げる市との連携を模索し、地域一帯を保養地として盛り上げる構想を描いている。

地粋人は一般社団法人ミントレイノ理事やアロマセラピスト、林業や建設業、フィットネスクラブなどの役員、社員ら22人でつくる。金沢工大、金大、金城大の教授や准教授、白山市職員らも名を連ねた。

ミントレイノが展開している自然栽培の食材を使ったレストランやアロマセラピー、アロマの蒸留事業などが近年、医療・福祉関係者や健康産業の企業などに注目され始めたため、それらをネットワーク化し、白山麓の活性化に生かそうと会をつくった。今後は法人の設立も検討する。

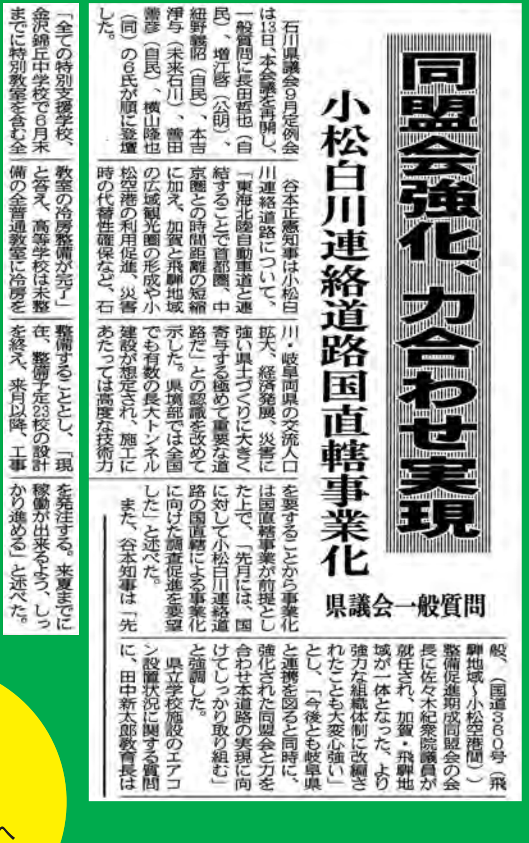
計画では、白山麓のホテルや旅館で数日間、宿泊してもらいながら温泉療法に取り組んだり、ミントレイノでハーブや薬草などを生かした食や体験をしたりする健康プログラムを構築する。

学生や地元住民と協力し、商品開発や自然体験のツーリズムなども予定する。ドイツの「クアオルト」（療養地）など欧州では保養地に数週間滞在して治療を受けながら観光もする仕組みが確立しているといい、日本版のクアオルトを目指す方針だ。

手始めにミントレイノを、健康増進活動の拠点「健康の駅」として登録を受ける予定。NPO法人の地域交流センター（東京）が認証している制度で、知名度アップが期待される。将来的には、各会員の人脈を生かして高齢者住宅や福祉機関、美容、健康食品などヘルスケア産業が集まる地域づくりに取り組む。

地粋人の高松秀夫事務局長は「地域振興の理念を共有する企業が業種を超えて連携することで、相乗効果を生むことができる。ぜひとも白山麓の盛り上げに貢献したい」と力を込めた。

白山麓の活性化を目指す構想の核となる「ハーブの里・響きの森 ミントレイノ」＝白山市女原



同盟会強化、力合わせ実現

小松白川連絡道路国直轄事業化

県議会一般質問

石川県議会9月定例会は13日、本会議を再開し、一般質問に長田哲也（自民）、増江啓（公明）、細野義昭（自民）、本吉淨与（未来石川）、善田善彦（自民）、横山隆也（同）の6氏が順に登壇した。

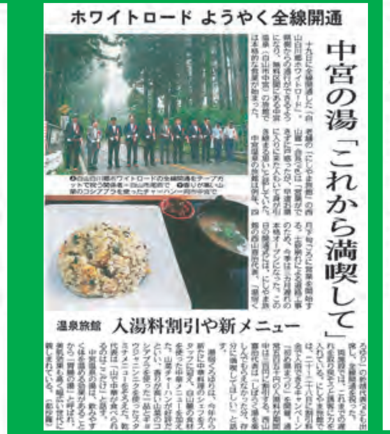
谷本正憲知事は小松白川連絡道路について、「東海北陸自動車道と連結することで首都圏、中京圏との時間距離の短縮に加え、加賀と飛騨地域の広域観光圏の形成や小松空港の利用促進、災害時の代替性確保など、石川・岐阜両県の交流人口拡大、経済発展、災害に強い県土づくりに大きく寄与する極めて重要な道路だ」との認識を改めて示した。県境部では全国でも有数の長大トンネル建設が想定され、施工にあたっては高度な技術力を要することから事業化は国直轄事業が前提とした上で、「先月には、国に対して小松白川連絡道路の国直轄による事業化に向けた調査促進を要望した」と述べた。

また、谷本知事は「先般、（国道360号（飛騨地域～小松空港間））整備促進期成同盟会の会長に佐々木紀衆院議員が就任され、加賀・飛騨地域が一体となった、より強力な組織体制に改編されたことも大変心強い」とし、「今後とも岐阜県と連携を図ると同時に、強化された同盟会と力を合わせ本道路の実現に向けてしっかり取り組む」と強調した。

県立学校施設のエアコン設置状況に関する質問に、田中新太郎教育長は「全ての特別支援学校、金沢錦丘中学校で6月末までに特別教室を含む全教室の冷房整備が完了」と答え、高等学校は未整備の全普通教室に冷房を整備することとし、「現在、整備予定23校の設計を終え、来月以降、工事を発注する。来夏までに稼働が出来るよう、しっかり進める」と述べた。

飛躍

ふるさとの発展へ情熱を注ぐ。



ホワイトロード ようやく全線開通

中宮の湯「これから満喫して」

温泉旅館 入湯料割引や新メニュー

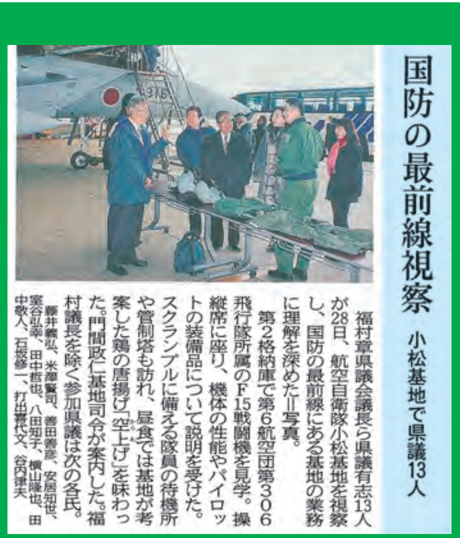
逆流防止で期成同盟会

白山市の熊田川、西川

手取川に合流する熊田川、西川の逆流を防ぐ樋門の整備に向け、白山、能美両市などは年明けに期成同盟会を発足させる。7日は国土交通省の佐々木紀政務官が白山市湊町の現地を視察し、地元首長や県議、住民から早期整備の要望を受けた。

手取川が増水した場合、熊田川、西川の逆流による農業被害が懸念されている。地元生産者は「近くに丸いも畑があり、川の排水機能が悪いと収穫や品質に影響が出る」と対策を求め、佐々木氏が「長年の懸案であり、国と地元が一体となって進めたい」と応じた。

これに先立ち、佐々木氏は小松市の梯川を視察し、地域住民が担う水門の点検、管理を国も後押しするとした。意見交換では、山田憲昭・白山、和田慎司・小松、粟貴章・野々市、井出敏朗・能美の各市長らが地元河川の整備促進を求めた。



国防の最前線視察

小松基地で県議13人

福村章県議会議長ら県議有志13人が28日、航空自衛隊小松基地を視察し、国防の最前線にある基地の業務に理解を深めた＝写真。

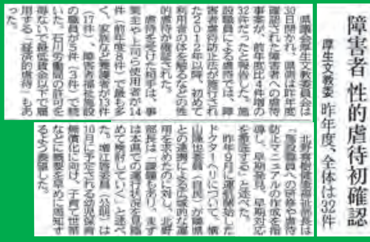
第2格納庫で第6航空団第306飛行隊所属のF15戦闘機を見学。操縦席に座り、機体の性能やパイロットの装備品について説明を受けた。スクランブルに備える隊員の待機所や管制塔も訪れ、昼食では基地が考案した鶏の唐揚げ「空上げ」を味わった。門間政仁基地司令が案内した。福村議長を除く参加県議は次の各氏。

藤井義弘、米澤賢司、善田善彦、安居知世、室谷弘幸、田中哲也、八田知子、横山隆也、田中敬人、石坂修一、打出喜代文、谷内律夫

大規模災害が全国各地で発生しています。石川県の備えを万全にすべく、日々、情報収集に努めています。

福祉・活性

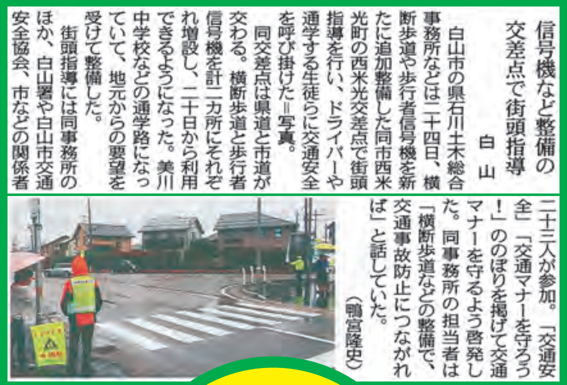
生き生きとした人生を実現する。



障害者 性的虐待初確認

厚生文教委 昨年度、全体は32件

人生100年時代において福祉を充実させることは大切です。誰もが輝ける社会の実現を目指します。



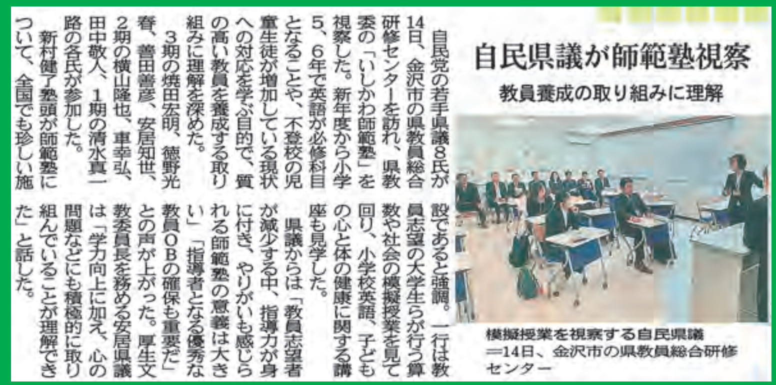
信号機など整備の交差点で街頭指導

白山

白山市の県石川土木総合事務所などは二十四日、横断歩道や歩行者信号機を新たに追加整備した同市西米光町の西米光交差点で街頭指導を行い、ドライバーや通学する生徒らに交通安全を呼び掛けた＝写真。

同交差点は県道と市道が交わる。横断歩道と歩行者信号機を計二カ所にそれぞれ増設し、二十日から利用できるようになった。美川中学校などの通学路になっていて、地元からの要望を受けて整備した。

街頭指導には同事務所のほか、白山署や白山市交通安全協会、市などの関係者二十三人が参加。「交通安全」「交通マナーを守ろう！」ののぼりを掲げて交通マナーを守るよう啓発した。同事務所の担当者は「横断歩道などの整備で、交通事故防止につながれば」と話していた。（鴨宮隆史）



自民県議が師範塾視察

教員養成の取り組みに理解

自民党の若手県議8氏が14日、金沢市の県教員総合研修センターを訪れ、県教委の「いしかわ師範塾」を視察した。新年度から小学5、6年で英語が必修科目となることや、不登校の児童生徒が増加している現状への対応を学ぶ目的で、質の高い教員を養成する取り組みに理解を深めた。

3期の焼田宏明、徳野光春、善田善彦、安居知世、2期の横山隆也、車幸弘、田中敬人、1期の清水真一路の各氏が参加した。

新村健了塾頭が師範塾について、全国でも珍しい施設であると強調。一行は教員志望の大学生らが行う算数や社会の模擬授業を見て回り、小学校英語、子どもの心と体の健康に関する講座も見学した。

県議からは「教員志望者が減少する中、指導力が身に付き、やりがいも感じられる師範塾の意義は大きい」「指導者となる優秀な教員OBの確保も重要だ」との声が上がった。厚生文教委員長を務める安居県議は「学力向上に加え、心の問題などにも積極的に取り組んでいることが理解できた」と話した。

模擬授業を視察する自民県議＝14日、金沢市の県教員総合研修センター

教育

次代を担う子供たちを育てる。

ふるさとが輝く姿は、地域住民にとって喜びです。施設整備などのハード面と、それを活用したソフト面の取り組みを連携し、さらなる発展につながるよう努力します。

グローバル時代における子どもたちへの教育は重要性を増しています。学力だけでなく人間としての総合力を身につける必要があり、厳しい環境に耐える精神力も欠かせません。地域住民が協力しながら子どもたちを見守り、次世代を担う人材を全力で育てます。

その他の活動写真は「横山たかや事務所 Facebook」でもご覧いただけます！

https://www.facebook.com/yokoyama.takaya.office/

右の QR コードからもアクセスできます▶